

南海トラフ等海溝型巨大地震の 設定手法の高度化に関する事業

実施主体：国立研究開発法人建築研究所
事業費：11.3百万円
対象事業：調査研究事業

事業目的

プレート境界型地震の被害を想定するため、最新の解析手法（プレートの動きを計算により導き出すこと等）により、地震動評価を精緻化する手法を開発し、地震災害現象の予測の高度化を図ります。

事業概要

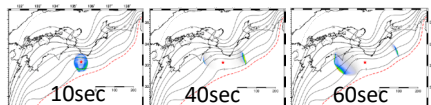
現状のシナリオ地震では、予測される最大規模で地震を設定・評価し、それに応じた対策を検討しています。

- 最新の地震学・測地学研究により、沈み込みプレート境界（南海トラフ等）の摩擦特性が明らかになりつつあります。また、動力学モデルによる破壊過程の再現やシナリオ地震の設定が先端研究として行われつつあります。
- これらの最新の解析手法を用いて、起こりうる可能性の高い地震のシナリオを設定し、地震動をより緻密に評価する手法の整理を実施します。

※動力学モデル：破壊の伝播過程そのものをモデル化する手法。詳細な破壊過程、地震動を再現可能。

本事業の手法によるシナリオ地震

動力学モデルによる地震動シミュレーション



- 地震の規模を予測
- 詳細な破壊過程を再現

効率的な事前防災対策

- 地震の規模に合わせた防災計画の作成、物資の備蓄、防災訓練の実施
- 地震の規模に対応した自治体間・関係機関の事前連携
- 地盤の破壊過程予測から避難経路設定・整備、避難所指定

<事業スキーム>

国土交通省

補助

建築研究所

一部委託

民間事業者等

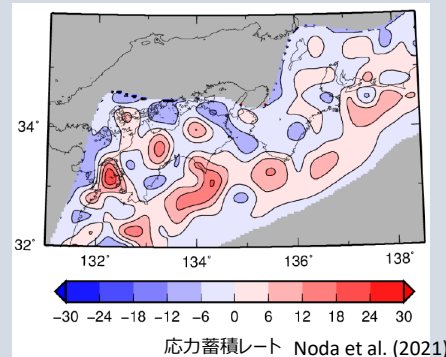
実施イメージ

<本事業で実施する取組>

<先端研究の活用>

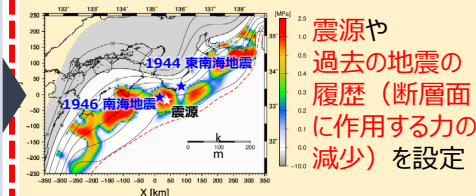
南海トラフに関する最新の観測研究成果

測地学研究から得られた
断層の内部エネルギー蓄積速度等に関する
知見を活用

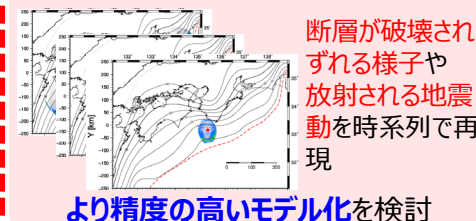


<本事業で構築する手法>

動力学モデルの構築



詳細な地震挙動を再現



<本事業により得られる効果>

地震動を高い精度で評価することが可能となります。その研究成果をとりまとめ、普及していくことで、将来、地震災害現象の予測の高度化に貢献することが期待され、当該結果に基づく適切な対策を検討することが可能です。